

心と体を育む性の健康教育

～舞♡My性教育の実践から～

霧島市立舞鶴中学校
養護教諭 國分 文音
養護助教諭 堀切 理恵

1 はじめに

本校は、平成15年に国分中学校の大規模校解消により分離新設され、創立23年となる。国分平野のほぼ中心に位置し、霧島連山や桜島が見え、豊かな自然に囲まれているが、田園地帯の急速な住宅化が進み、全校生徒832人、31学級、職員70人の大規模校で、養護教諭は2人配置である。学校教育目標は「高い志と誇りをもち、心豊かで学び続ける生徒の育成」と掲げ、一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングの実現）を目指して教育活動を実践している。

2 本校生徒の実態から

生徒の多くは、明るく活発で充実した学校生活を送っている。部活動は、文化部・運動部共に活動が盛んで、県大会や九州大会、全国大会へ出場するなど優秀な成績を収めている。

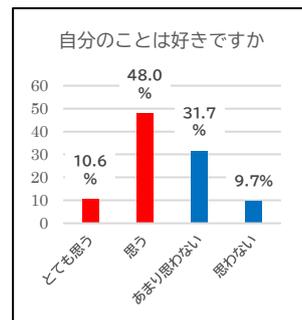
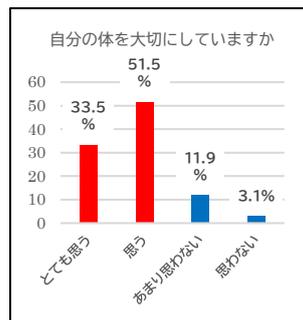
一方で、生活習慣の乱れやメディア使用による心身の不調で遅刻や欠席する生徒も多い。

また、令和6年度の保健室来室者数は、約2300件で朝食の欠食や睡眠不足の影響と考えられる体調不良を訴える生徒も少なくない。

3年生を対象に実施した性に関する意識調査では、「自分の体を大切にしていますか」の質問に「とても思う」「思う」と回答した生徒は85.0%（193人）、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒が15.0%（34人）、「自分のことは好きですか」の質問に「とても思う」「思う」と回答した生徒は58.6%（133人）、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒は41.4%（94人）だった。

来室生徒の健康相談では、思春期の不安や悩み、問題行動、男女交際等についての内容が多く、性に関する学びを通して、生徒一人一人に

自分と他者を大切にできる力を育む必要があると考え、教育活動全体を通して取組を行った。



3 具体的な取組

(1) 健康強調週間

年5回の健康強調週間の中で、計画的に『心を育む性に関する健康強調週間』を設定した。期間中、次表のような指導内容に基づいたプリント資料を配布し、給食時の放送でワンポイント指導を行った。

	主な指導内容
1日目	HIV、レッドリボンについて知ろう
2日目	プライベートゾーンを知ろう
3日目	パーソナルスペースを考えよう
4日目	性情報の選び方考えよう
5日目	性被害・性加害を考えよう

(2) 生徒会保健部の取組

生徒会保健部の主体的な取組として、『デートDVって知ってる?!』と題して掲示物を作成した。全生徒に伝えたいという思いから、保健室前に掲示をしたところ、多くの生徒が関心をもち、「自分は彼女いるけどこれはしていない。」との感想がある一方「これもDVなんだ。」と生徒同士で語り合う姿等も見られた。



【掲示物を作成する生徒】



【掲示物を見る生徒】

(3) 外部講師による指導

ア 心を育む性の健康教室

3年生を対象に男女別に実施した。講師として、泌尿器科の医師と思春期保健相談士を招いた。

自分の体に関心をもち、大切にすることの重要性や性的同意と性的嫌



【講話の様子】

がらせ、性被害・性加害、SNSトラブルの事例について学んだ。生徒から、「自己中心的な恋愛・価値観の押しつけは相手を傷つけてしまう。思いやりの心をもつことが大切だと知った。」「性について興味ないが、知らなくても良いということは決してなく、無知であることは恐ろしいと知った。」等の感想があった。

イ 職員研修

本校では、2年に1回、性に関する内容の研修を行っている。テーマに応じて、医師や助産師、地域の保健師等を講師に招き、地域の若年妊娠の実態や各ライフステージにおける性的健康課題、学校における性に関する指導の進め方等について研修している。職員からは「自分自身の性にも向き合う機会になった。生徒にも性の大切さを伝えたい。」等の感想があった。

ウ 学校保健委員会

思春期保健相談士を講師に招き、保護者を対象に講話を実施した。



【講師を囲み語り合う様子】

中学生の性知識の情報源や、保護者が子供から性に関する質問を受けた場合の対応、PMSについて等、家庭で日頃から感じている身近なことについての内容であった。講話後は、多くの保護者が講師を囲んで意見交換をしたり、講師の紹介した絵本を手にとって語り合ったりする様子が見られた。保護者から「子供たちが幸せな人生を送るために、大

事なことを考え直すきっかけになった。」等の感想があった。

(4) 保健だよりの活用

毎月発行している保健だよりに、「舞♡My性教育」コーナーを設け、性に関する情報を発信した。生成AIで作成したオリジナルキャラクター「まいまる」を案内役に、生徒が親しんで学べるように工夫した。



(5) 「生理の貧困」の対策

生理の貧困対策として、各女子トイレにメッセージを掲示している。その中に、「困った時はいつでも保健室へ」の言葉を添えている。

4 取組の成果と課題

(1) 成果

- ア 意識調査の実施により、生徒が何を知りたいか把握することができ、具体的な取組につなげることができた。
- イ 生徒会保健部の掲示資料や性に関する健康強調週間の実施により、性を身近で大切なものと捉え、不安や悩んだ時に相談しやすい環境づくりができた。

(2) 課題

- ア 性に関する意識や知識の個人差は大きい。個別の対応についても、家庭や職員間の連携を軸に丁寧に進めていく。
- イ 多感な中学生の時期にタイミングを逃さない対応ができるよう、職員間の連携と支援体制を整えていく。

5 おわりに

メディアの普及により、生徒たちは様々な性情報を得られる環境にあり、発達の段階に応じた性に関する指導が必要と言える。日頃から生徒たちとの信頼関係を築き、実態に即した一貫性のある、性に関する指導の在り方を模索していきたい。